



土手長町中丁(現在の中通)にあった市庁舎

**1889** 明治22年  
秋田市誕生。当時の人口は約3万人。



藤倉水源地の工事風景

**1907** 明治40年  
東北で初めて水道の通水開始。



日本有数の大油田に

**1914** 大正3年  
黒川油田(金足黒川)で大噴油。石油事業が本格化。

# 百二十年、ひと昔…

今年、秋田市120歳。  
いろいろなことがありました。



爆破による通水

**1938** 昭和13年  
22年の歳月をかけ、雄物川放水路の工事が完成。

**1951**  
昭和26年

広報あきたの創刊は1951(昭和26)年。市制120年の歴史のうち、半分の約60年間、市民のみなさんにさまざまな情報をお伝えしてきました。  
これまでに広報あきたの紙面を飾った写真や記事で、秋田市の歩みを振り返ってみましょう。



昭和26年7月15日号  
(広報あきた第1号)



攻撃目標となった日石秋田製油所

**1945** 昭和20年  
終戦前夜の8月14日午後10時30分ころ、土崎空襲。多くの尊い命が犠牲に。

# 1964

昭和39年

## 待望の市庁舎完成

総工費7億円、約1年の工期で現在の市庁舎が完成しました。10月26日に行った落成式典では、竿燈50本、ママさんコーラス、中学校・高校の鼓隊・ブラスバンドが、大勢の市民とともに新しい門出を祝いました。



昭和39年10月20日号



土手長町上丁(現在の千秋矢留町)にあった市庁舎(写真)から移転しました

# 1980

昭和55年

## 竿燈が重要無形民俗文化財に

昭和55年1月28日、竿燈まつりが国の重要無形民俗文化財に指定されました。江戸時代に町人の祭りとして誕生した竿燈が、時代とともに東北を代表する祭りとなり、この年、国の貴重な財産として認められました。



秋田市竿燈会名誉会長 堀田正治さん(山王)

若いときは自分が竿燈を楽しむことに夢中でしたが、文化財に指定されてからは、このすばらしい祭りを次の世代に伝えていかなければと強く思いました。竿燈を演じる人と見てくれる人が、今以上に楽しさを共有できる祭りになってほしいです。



昭和55年1月20日号



倒壊した塀で押しつぶされた自動車



昭和58年6月10日号

# 1983

昭和58年

## 日本海中部地震で甚大な被害

昭和58年5月26日、能代沖を震源とする地震が発生しました。秋田市では震度5を記録。3人のかたが亡くなり、建物などにも大きな被害がありました。決して風化させてはならない悲しい出来事でした。



大町では道路が陥没しました